昭和大学歯学部だより 2009．12号

通算73号
2009．12．31発行

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　井上　富雄
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：　http://www.showa-u.ac.jp

恒常的な教育改革の推進

歯学部長　宮崎　隆

平成21年度は歯学教育にとって後世から見て分岐点になるかもしれません．マスコミにより医師不足と歯科医師の過剰感が喧伝されるなか，平成21年度入学試験では多くの大学が定員割れを生じまた，国家試験の合格率も低く抑えられました．そして，文科省の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の第1次報告を受けて，3月と7月には，各大学が個別に文科省で改善への取り組みに関するヒアリングを受けました．このような状況のなかで，先般平成22年度の推薦入試が行われましたが，幸いなことに本学では昨年よりも志願者が増加し，これまでの教育の取り組みや実績が受験生や関係者に理解されているものと感謝申し上げます．

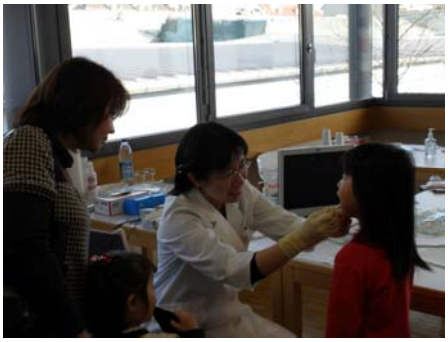
本歯学部ではこれまで教育改革に真摯に取り組み富士吉田校舎における初年次全寮制教育と継続的な4学部横断（連携）カリキュラム等による将来のチーム医療を目標にした教育，社会と歯科医療コースにおける地域連携教育，問題解決能力と生涯学び続ける能力を養うための問題基盤型学習（PBL）の導入など，特色ある教育を推進し，成果をあげてきました．今年はプロフェッショナリズムとコミュニケーション能力の涵養を目的に，新規に，1年生に開業歯科医院の体験実習を成功裏に実施しました．また，現在，3年生が豊洲病院で「一般病院実習」を実施中です．夏のワークショップの議論をもとに，本学学生が卒業時にアウトカムとして獲得する臨床技能と態度（プロフェッショナリズム）に関するコンピテンシーを完成させ，その評価のために来年の3月に「臨床実習終了時OSCE」を実施の予定で準備を進めています．

歯科病院においては，地域開業歯科医院や医学部附属病院等との連携を強化する目的で，4月に総合歯科を開設し，順調に稼働しています。設立2年目になった昭和大学口腔ケアセンターも各附属病院で着々と実績を積み、地域との連携も始まっています．教育の国際化への対応については，6年生が5名，南カリフォルニア大学，天津医科大学，大連医科大学等の交流校で選択実習を受け，また，夏休み時期に南カリフォルニア大学とアデレード大学から5名の選択実習生を受け入れました．また，今年は新たにカナダのトロント大学とも学部間の交流プログラムを締結しました．3月に予定の臨床実習終了時OSCEには，香港大学とアデレード大学から外部評価者を招聘し，合わせて教育に関するミニ国際シンポジウムを開催の予定です．このように歯学教育を取り巻く環境が激変するなかで，本学では新しい教育に積極的にチャレンジした一年であったと思います．今後も，カリキュラムを継続的に点検し，国民に奉仕できる歯科医療人の育成に鋭意取り組む所存です．学生が一歩一歩大きな目標に向かって成長できるように，関係者のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます．

財団法人海外邦人医療基金（JOMF）の歯科検診・健康相談事業に参加して

口腔リハビリテーション科　濱田　浩美

今回私は，海外在留邦人の医療不安解消のためJOMFが行っている海外巡回健康相談・専門科目医療相談事業の歯科部門に選抜され，11月27日～12月7日までドイツの3都市（デュッセルドルフ・ミュンヘン・フランクフルト）の日本人学校で歯科検診・健康相談を行ってまいりました．検診・相談を受けた人数は三都市合計約200人で，多数歯にう蝕をもつ子供達が多いと感じました．これは，言葉や日本と現地の医療の違いに戸惑いや不安が大きいためと考えられ先進国でも歯科受診をしづらい状況にあるということを認識しました．今後はたった数日間の介入でもこのような状況を改善できるように考えていかなければならないでしょう．

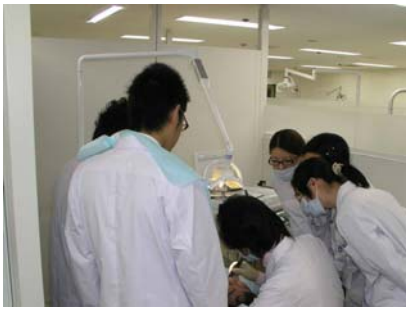


また，フランクフルトでは小学4・5年生の授業を2回やらせていただけたので，口から食べる重要性を歯の健康からお話をしてまいりました．

最後に，この事業に参加することを許可してくださった岡野友宏病院長，口腔リハビリテーション科高橋浩二教授そのほか多くの先生方にこの場をお借りしてお礼を申し上げます．

D3 歯科診療の基本がはじまりました

D3 歯科診療の基本準備委員会　山本　松男



Ｄ２臨床入門に引き続き，座学を中心に学ぶ知識が頭の中で立体的・有機的に整理されることを期待し，歯科病院および旗の台校舎で早期相互実習を新規に設けました．昨年まで長谷川准教授（歯学教育研修センター）がコーディネートされていた「歯科診療の基本」が，歯科臨床科目に対する興味と理解を深めるための歯科病院見学を中心としたプログラムに付加する形で，名称は「歯科診療の基本」のままとなりました．学生と教員の混乱を防ぐために「D3」の枕詞をつけながらご紹介をするようにしています．体験実習として歯科病院における相互超音波スケーリングの実施，さらに血圧・脈拍数・酸素飽和度の相互測定と全身状況の把握を相手に伝える医療面接形式により普段の学習内容と医療が直結していることを学んでもらう機会としました．知識と医療の実施の関係を意識したところで歯科病院での見学実習につなげていきます．従来の教育内容を,体を動かす実習と見学を通して体系化し，今後の学習に深みをもたせるのが目的です．

早期体験で慣れぬ現場に少々戸惑いの様子も見受けられましたが，「歯科っておもしろい」という感想も聞かれました．社会から求められる歯科医療の多様性に対応して，本学においても新しいカリキュラムに工夫をしています．伝統的な教育内容の重要性は何ら変わることはありません．それらを社会の現状や学生の気質に合わせて提供することが現在の歯科教育の現場に求められてきています．

上條奨学賞（教育功績）を受賞して

歯科補綴学教室　古屋　良一

この度,平成２１年度の上條奨学賞を授与されました歯学部歯科補綴学教室の古屋良一で御座います．本学創設者である上條秀介先生ゆかりの最も栄誉ある賞を受賞致しましたことを，大変に光栄に存じております．本賞は，こまでは研究業績に対して贈られていましたが，今年度から教育功績に対しても贈られることになり，私が,歯学部第１号の栄誉を賜ったことを大変に誇りに思っております．従来の研究業績に対してであれば，これまで歯学部で歴代受賞された先生方にはとても及びませんので，身の細る思いでしたでしょうが，教育功績に対してであれば，少し気持が楽になり，私でも頂けるのかと，１人で納得している次第です．

私が評価された教育功績は，「歯学教育への新カリキュラム導入支援」に対してです．７年前に歯学部２年生から新カリキュラムが導入されましたが，そのカリキュラムプランニング，特に，「口腔顎顔面の発生・構造・機能および機能障害」の分野を担当し，実施に当たってはコーディネーターとして関り，現在に至っております．当初から PBL を積極的に導入し，新しい教育方略を実践してまいりました．また，共用試験では CBT を担当し，第１回のトライアルを全国に先駆けて実施したことを誇りに思っております．お陰様で，本学学生の CBT の成績は常に上位を維持しております．これも多くの先生方の熱心な教育の賜物と感謝しております．

私も定年まで２年余りとなりましたが，最後まで，この賞を励みに教育に努めたいと思います．有難う御座いました．

上條奨学賞（研究業績）を受賞して

歯科理工学教室　柴田　陽

本年度から上條奨学賞の規定が見直され，最初の受賞に選ばれたことを大変光栄に思います．私は昭和大学歯学部の１４期生で，１年間の留学経験を除けば昭和大学以外で専門の高等教育や訓練を受けたことはありません．今回の受賞は先生方の教育指導の成果であり，まずはそのことに感謝いたします．

受賞テーマは口腔インプラントの表面改質です．歯科理工学では，材料を物理的に評価することが多いのですが，インプラントでは生物学的な評価も重要です．私が入局した当時は，インプラントの評価方法として確立したものはありませんでしたので，化学的な分析方法や生物学的評価をミックスしながら，手探りで研究を続けてきました．昭和大学歯学部では，講座間の壁をあまり感じません．私はわからないことだらけでしたので，他の講座の先生方に素人のような質問をぶつけに行くことが何度もありましたが，どんなことでも丁寧に教えていただきました．これまでを振り返って，境界領域で多少面白い研究ができたのはそんなサポートのおかげなのだとつくづく感じます．歯学部で研究をしているわけですから，できるだけ歯科の特徴ある研究で業界の底上げをすることが目標です．漠然と，「実はこんな研究がしてみたい」というアイデアをお持ちの先生方もいらっしゃると思います．私なりのやり方でお力になれると思いますので，どうぞお気軽に声をかけてください．

鈴木　大先生の論文が Science の Editor's Choice で紹介されました

広報委員長　井上　富雄

大学院歯学研究科4年生の鈴木 大先生(口腔生化学教室)の学位申請論文"Essential mesenchymal role of small GTPase Rac1 in interdigital programmed cell death during limb development" が11月20日付の米科学誌「Science」の Editor's Choice に掲載されました. Editor's Choice は, 他の学術雑誌に掲載された論文の中から極めて優れたものを選び, その内容を紹介するものです. 本論文では, 低分子量 G タンパク質の一つ, Rac1 を胎生期の手足で特異的に欠損させた遺伝子改変マウスを作製したところ, 合指症を呈することが報告され, またその原因が胎生初期の手足の指間部で正常に行われるはずの細胞死(アポトーシス)の不全による事を示しています. 詳しくは"The Digital Divide" Science (2009), Vol. 326, p1043 をご覧下さい.

タイム誌で368位にランクされました

広報委員長　井上　富雄

英国タイムズ紙別冊高等教育版で, 2009年度世界大学ランキングが発表されました. 昭和大学は368位で, 前年度の359位から少し順位を下げましたが, 日本の大学全体で16位, 私立大学では慶応学, 早稲田大学に次ぐ第3位を保っています.

このランキングは, 世界の大学を, 研究力(研究者の評価40%, 教員一人当たりの被論文引用数20%), 就職力(企業等の雇用者側からの評価10%), 国際性(外国人教員比率5%, 外国人学生比率5%), 教育力(教員数と学生数の比率20%)で評価して作成されています.

昭和大学での選択実習に参加して

アデレード大学　Cynthia Wong

I came to Showa University for a 10-day student-exchange visit to fulfil the selective requirement of my course. Throughout my stay in Japan, I was supervised by Associate Professor Ryuta Kataoka. On other aspects of my trip, such as accommodation, I was well-taken care of by the International Student Officer, Miss Chieko Kawaguchi. During my trip, I was involved in an intensive observatory program in the Showa Dental Hospital.

During the first day of my stay, I was greeted with a welcome party which reflects the very best of Japanese hospitality. Heart-warming greetings and generous amounts of food (and, of course, great beer) were served. I was very honoured when the dean of the school, Professor Takashi Miyazaki took time to greet me in the midst of his busy schedule. Various top professors of different departments also took time off to say hello. The fact that students from various years continuously appear during the party just to meet me definitely helped in making me feel more at home in what could have been a rather intimidating atmosphere, this being my first visit to Japan. Despite having a limited ability of English, they successfully did their best to make me feel welcomed. Such good manners and thorough arrangement was a first experience for me, and it truly touched my heart till today.

Upon my arrival in Tokyo, I also immediately noticed the limited amount of space and land in this country. This factor has indirectly shaped the rhythm of progress for everyone in Japan, including the dental system. I realized that in every department or building, all necessary facilities are normally either within the building or within the same floor, e.g. a comprehensive medicine department is set up within the dental hospital so that patients with systemic problems can be attended to within the same building. According to the director of Showa Dental Hospital, Professor Tomohiro Okano, the reason for keeping all necessary departments and facilities within the premises is due to the high number of aged patients with increasing number of systemic problems. With the increasing ageing population worldwide (including Australia), Japan has managed to provide the best infrastructure not only for the convenience of patients, but also for the entire dental delivery scheme as well.

As a nation, the Japanese are very dedicated people who constantly pursue the art of perfectionism. Whilst dedicatedly pursuing their vocations, they still enjoy a good and healthy lifestyle, as well as handle matters very calmly and patiently. As a foreigner, this truly amazed me. In the quest to broaden my horizons, I will definitely return one day to learn more from this land of the rising sun.

第68回日本矯正歯科学会に参加して

大学院4年（機能再建学専攻） 南保　友樹

11月16日から3日間にわたり，福岡で開催された第68回日本矯正歯科学会に参加致しました．日本矯正歯科学会はその名の通り日本全国の矯正医が参加する学会で，毎年開催されています．今回の会場は，福岡の博多にある福岡国際会議場とマリンメッセ福岡で行われました．口演発表，ポスター発表とも，内容は臨床から基礎に関するものまで多岐に渡ります．全国の矯正医がどのような治療を行っているのか，今最も活発に行われている研究はどのようなものなのかを知ることができ，大変有意義な3日間でした．また，同じ分野の研究を行っている先生にお話を聞くことができ，今後の研究の参考になりました．あいにく学会中は雨が降っていることが多く，また11月という季節がら，朝，晩はとても冷え込みましたが，福岡の街並み，食べ物を満喫することが出来ました．また，学会中に医局の懇親会も行われ，普段お会いする機会があまりない OB の先生方とも交流を深めることが出来ました．来年の日本矯正歯科学会は横浜で行われます．

受　賞

広報委員長　井上　富雄

平成21年11月16～18日に開催されました「第68回日本矯正歯科学会」におきまして，南保友樹（歯科矯正学教室　大学院4年）演題名：「従来の腸骨移植に代わる新たな骨再生法の開発検討　～骨補填材としての抜去歯の可能性～」，山口徹太郎（歯科矯正学教室　講師）演題名：「EDAR はモンゴロイドに多いシャベル型の切歯出現を決定する」が「優秀発表賞」を受賞されました．

昇　任・採　用

広報委員長　井上　富雄

・山本　剛（口腔病理学教室）
平成21年12月1日付で講師に昇任されました．

専門医・認定医取得

広報委員長　井上　富雄

日本癌認定医機構　暫定教育医（歯科口腔外科）
　新谷悟（顎口腔疾患制御外科学教室　主任教授）
　羽鳥仁志（顎口腔疾患制御外科学教室　准教授）
　代田達夫（顎口腔疾患制御外科学教室　准教授）
　岩瀬正泰（顎口腔疾患制御外科学教室　講師）
日本歯周病学会　認定医
　鈴木一成（歯周病学　員外助教）
　崎山悠介（歯周病学　兼任講師）
　向原正（歯周病学　大学院生）
　森高俊一郎（歯周病学　普通研究生）
日本障害者歯科学会　指導医
　弘中祥司（口腔衛生学　准教授）
日本障害者歯科学会　認定医
　船津敬弘（小児成育歯科学　助教）
日本老年歯科医学会　認定医
　石川健太郎（口腔衛生学　助教）
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会　認定士
　内海明美（口腔衛生学　講師）
　石川健太郎（口腔衛生学　助教）
　大岡貴史（口腔衛生学　助教）
　久保田一見（口腔衛生学　助教）
　拝野俊之（口腔衛生学　大学院4年）
　山中麻美（口腔衛生学　大学院4年）
日本歯科審美学会認定士
　鍛冶田忠彦（中央技工室）
日本歯科麻酔学会認定医
　田口明日香（歯科麻酔科　助教（員外））
　島津玲奈（北部病院　出向中　助教（員外））
　朝倉二葉（歯科麻酔科　普通研究生）
　老川暁子（歯科麻酔科　普通研究生）
　佐井佑加（歯科麻酔科　普通研究生）

行事予定

広報委員長　井上　富雄

1月16日（土），17日（日）：センター試験
1月30日（土）　：歯学部選抜Ⅰ期入試
2月3日（水）　：CBT
2月6日（土），7日（日）：第103回歯科医師国家試験
2月20日（土）　：歯学部選抜Ⅱ期入試
2月21日（日）　：OSCE

診療統計（平成21年11月分）

医事課長　久米　徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,333	742．4	695．3	736．3
入院患者	446	14．9	14．2	10．0

編集後記

口腔生化学教室　山田　篤

学部だよりを一年に一度，編集させていただいております．歯学部で現在どのようなことが行われているのか，また，過去のこの時期にどのようなことが行われていたのか，歯学部だよりを見るととてもよくわかるものになっております．編集作業を終え，ゲラ刷りが出来上がったときの達成感は格別です．末筆ではございますが，お忙しい中，原稿を執筆くださいました諸先生方に感謝申し上げます．来年もよいお年を．